

校長通信

Morifun

<暑い中、熱く燃えた夏>

盛附生のこの夏の活躍を振り返る

梅雨明けが例年になく遅れた今年の夏は、それを期に一気に暑くなり、毎日真夏日や時には猛暑日を記録するなど大変な暑さに見舞われました。そんな中、盛附生たちは暑さに負けず部活動等で頑張ってくれました。

まずは岩手よりもさらに暑い南九州の鹿児島で8月9日～11日にかけて開催されたインターハイ柔道大会、柔道部は6年振りに団体に出場しました。1回戦で重量級を揃えてきた京都代表京都学園に善戦むなしく0-3で敗れました。個人戦に出場の澤口君(3年 81kg級)は1回戦で長野代表の東海大諏訪の選手に敗れ、同じく岡山君(3年 73kg級)は団体戦での怪我があり残念ながら棄権で不戦敗となりました。岡山君は9月に全日本ジュニア選手権が控えているので、ぜひ万全な状態で出場して欲しいと願っています。また、団体戦には2年生も3人含まれていたため、今回の経験を活かし今後の活躍を期待するところです。

1ヶ月以上前になりますが、7月20日、21日に運動公園陸上競技場で岩手県民体育大会兼国体最終予選が行われ、陸上部の生徒たちも上位入賞を果たしました。2部男子1500mで清水畑君(2年)が第3位、同じく5000mで服部君(2年)が第2位、同じく3000mSCで武蔵君

(2年)が第1位、佐藤碧君(2年)が第3位に入賞。そして4部男子3000mでは大宮君(1年)が第1位、佐藤美君(1年)が第3位と大活躍でした。これからの駅伝シーズンに向けても期待が高まります。

運動部ばかりでなく文化部にも目を向けてみましょう。まずは華道部が8月4日仙台市で開かれた「Ikenobo 花の甲子園2019」東北大会に、植村君、猿田さん、十文字さん(いずれも3年)がチームを組んで出場しました。全国大会に出場できる最優秀の1校を東北6県の13校が競いました。残念ながら全国の切符を手にするにはできませんでしたが、磨いてきた技そしてプレゼンテーションを披露しました。また演劇部はあと一步のところ県大会出場を逃しましたが、その演技は好評で小山田さん(2年)が創作脚本賞を受賞しました。

暑い夏を締めくくるのは8月2日に行われた「さんさ甲子園」です。さんさ同好会総勢43名が参加、また顧問である関根先生が太鼓、村井先生が鐘で助っ人参加。残念ながら入賞こそ逃しましたが、太鼓や踊りなどそれぞれのポジションで頑張りました。盛岡生まれ盛岡育ちの私も提灯を持って生れてはじめてさんさパレードに参加してもらいました。先頭を歩くのでみんなのパフォーマンスが見られないのが残念でしたが…

団長を務めた松浦史紋君(3年)の感想です。

1 さんさ甲子園を振り返って

「出場3度目の今年は、1番の出来だと感じています。笑顔と声も1番キレイで踊りの正確さ、横列のズレも少なかったです。今年の練習は普段とは違い、30分エンドレスで踊るなど工夫を重ねてきました。今年もOB、OG、教育後援会の方々力を借り、よりパワフルな盛岡大附にすることができました。」

2 3年間を振り返って

「3年間団長をさせていただき色々なことを経験させていただきました。ケンカもあり、練習もぎこちなく、どうしたらいいかわからない時が多々ありました。練習方法や踊りの正確さが確立したのが3年目だと感じてい

ます。これは先輩方の指導があったからこそだと思っています。また関根先生・石塚先生には何度も迷惑をかけ、言葉じゃ表しきれないほど感謝しています。最高の仲間に出会えた3年間でした。」

3 後輩へ一言

「いろんな局面がこれからあると思います。みなさんの笑顔や元気があれば乗り越えられるはずですよ!!もっともっと進化した盛岡大附さんさ部になることを期待しています!!」



「さっくら～
ちよいわやっせ～
ハラハラハラセ～」
の掛け声とともに



今後の予定

8月30日(金)～31日(土) 盛附祭

9月6日(金)～11日(水) 第2期末考査

今月の言葉「幸せと言える一日。朝、希望と共に目覚めます。昼、努力の汗を流します。夜、今日一日に感謝して眠ります。目覚めたときに、今日、行くところがあり、やるべき仕事があることに気がついた瞬間が幸せなのです。常に感謝の心を持ち続けたいものです。」